

地震が起きたら

地震が起きたら、まずは落ち着いて身を守りましょう。次のことを覚えておきましょう。

- 1 家具から離れ、丈夫な机などの下に隠れる
- 2 大きな揺れが収まったら、火の元を確認する
- 3 ドアや窓を開け、出口を確保する
- 4 外に出るときは、あわてて飛び出さない
- 5 テレビやラジオの正しい情報を聞く
- 6 隣近所と声をかけ合い、安否確認をする
- 7 避難するときは、家族で決めた避難方法で
- 8 協力し合って応急救護を



津波から身を守りましょう。次のことを覚えておきましょう。

- 1 強い地震や長い揺れを感じたら、低地にお住まいの方、海や川に居る方は、すぐに高い所へ避難する
- 2 揺れを感じなくても、大津波警報・津波警報が発表されたら、すぐに高い所へ避難する
- 3 テレビやラジオ、防災無線放送などの正しい情報を聞く
- 4 津波は繰り返し襲ってくるので、注意報が解除されるまで、低地、海や川に近づかない



日ごろの備え

家族の防災会議を開きましょう。

- 1 いざというときの、家族一人ひとりの役割を決めておく
- 2 いざというときに、家族が離れ離れの場合の連絡方法や避難場所を確認しておく

家の危険箇所をチェックしておきましょう。

- 1 建物の危険箇所をチェックする
- 2 家の中の危険箇所をチェックする

非常持出品・非常備蓄品を用意しましょう。

- 1 非常持出袋などに入れて一人ずつ用意する
- 2 すぐ持ち出せる場所にひとまとめにしておく



避難ルートを実際に歩いておきましょう。

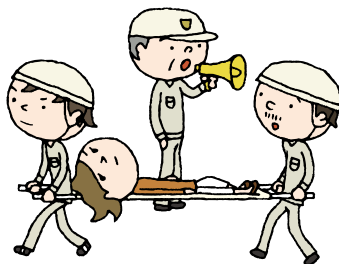
- 1 道路が狭い所や危険箇所をチェックする
- 2 一つのルートだけでなく、ほかのルートも調べておく
- 3 避難場所までの手作りマップを作っておく



災害時要援護者の支援を

災害が発生したとき、乳幼児や高齢者、障がい者、傷病者、外国人などは被害を受けやすくなります。地域で協力し合い、支援しましょう。

- 1 近所や地域の災害時要援護者を把握する
- 2 日ごろから声かけなどのコミュニケーションをとる
- 3 避難経路を一緒に確認しておく
- 4 災害時には進んで声かける
- 5 地域の防災訓練に積極的に参加してもらい、いざというときの支援体制について話し合う



● 今月号の「消防かわら版」（10 頁）に台風の注意事項も掲載していますので、ご覧ください。

防災に関するお問い合わせ・ご意見は

▶ 防災対策課 ☎ 23局3548 ✉ saigai@city.tahara.aichi.jp